

まちづくり活動支援事業補助金（申請額20万円以下）

No.	団体名 (団体設立年月日)	夢ファンド申請 事業名	申請するに至った 想い	事業目的	事業概要	得点	採択結果
1	特定非営利活動法人ぶらっとほーむ (H30.6)	お仕事見学、体験プロジェクト	若者の居場所活動をする中で、若者からの相談件数が年々増加している。柔軟な働き方や生き方に触れることで、若者自身の生き方を振り返るきっかけとしてほしい。	不登校、引きこもりの当事者、家族は「ちゃんと会社で働けること」を自立の目標としがちであるが、社会経験の少ない当事者にとって働くことのハードルは高いため、顔の見える関係性を作り、みんなで街を盛り上げている東栄町の皆さんの柔軟な働き方、生活に触れることで、こうあるべき、という考え方を転換し自分らしい働き方、生き方を発見していくきっかけとする。	7月末～8月上旬（変更可能性有）に、刈谷市内法人活動拠点各所や東栄町各種事業所にて開催。対象者は、ぶらっとほーむ・LITALICOワークス刈谷の利用者及びその家族と、お仕事見学や体験に興味のある一般市民。内容は、4日間のお仕事体験とお仕事見学会1日。事前に参加するにあたり、個別の目標、問題意識の確認をする。お仕事体験では、東栄町の宿泊施設で4日間暮らしながら、東栄町の事業所で職場体験を予定。日常生活の支援や事業所との連携、就労アセスメント等のコーディネートを、「言の葉工房」白井氏に依頼。お仕事見学では、東栄町の事業所各所の見学、ミニ体験（作物の収穫や選別など）を予定。終了後は、当初の目的の達成の様子を振り返る。体験参加者は就労アセスメントを受け、今後の就職に向けての材料とする。	19.85	採択
2	刈谷発達仲間会 (R6.3)	大人の発達障がい者支援落語家【柳家花緑】師匠の講演落語会	偶数月に開催している学びの会の参加者は、若い年代の方も増えてきた。世代間を超えて障がいの特性についての理解を深め、日々を健康に幸福に暮らせる”絆”の輪を広げたい。	発達障がいは治療で改善は見られても完治は難しい病気で、人間関係の困難さや“こだわり”の強さが特徴の症状や、読み書きや計算の学習が困難な症状もある。「障がいへの理解を深める」をテーマに個性差を受け入れ、一緒になって考え、誰もが生き易く住み易いと感じる町づくりにつなげ、『一人で抱え込まずに本音で話し合える場所』をつくりたい。	令和8年9月27日(日)午後2時～4時に、刈谷市産業振興センター・あいおいホール(700席)にて開催する。障がいの特性の影響で困ったり辛さを感じている人・子の障がいに悩み、子の成人後の対応に心配を抱く人・障がい者を理解し、一緒に暮らせる町づくりを目指す市民を対象に、40歳を過ぎてから発達障がいの診断を受けた花緑師匠による、幼児期からの辛さや悩みを抱えながらも社会で活躍する有様を語る講演落語を通し、質疑応答を交えながら、『笑いを誘い、参加者の皆さんへ勇気を与え、心の悩みをスッキリ』させる。前回はPR開始が遅れたので、早めのPRを心掛ける。また、チケット販売方法も電子方式のみを改め、ご年配の方のアドバイスを参考に、窓口取扱を併用する事で改善を図る。	19.29	採択
3	刈谷防災ボランティア (H13.5)	防災福祉フェア～地域の防災力を高めるために～	国民だれひとり漏らすことのできない共通課題である防災に対して、これまでの活動で得た多くのノウハウや人脈、組織間のつながり等の資源に横串を通すことで、相乗効果を生み出したい。	体験型防災イベントを開催し、市民への防災・減災・備災の啓発啓蒙を通して、地域住民の防災意識を高めることに寄与する。また、体験ブースの実施内容は手順書にまとめ、知識・スキルの継承・後継者の育成につなげる。	令和8年11月21日（土）に、刈谷市総合文化センターにおいて、一般市民を対象に防災イベントを開催する。内容は、防災講演会（例：南海トラフ巨大地震への備え、講師：名古屋大学名誉教授福和伸夫氏等）を基軸に、体験ブースを多数設置し、参加体験型のイベントとする。具体的には、家具の固定、ガラス飛散防止、災害時トイレ、非常持出品、備蓄、身近なものを使った防災対策、応急手当、ロープワーク、搬送訓練、感染防止対策、非常食、炊飯袋、防災ゲーム、ボランティア活動写真展示など、同様のイベントから一歩踏み込んだアクティビティを盛り込む。	19.93	採択
4	富士見町自主防災会 (H24.5)	みんなで描こう！つながる防災・ひろがる地域力～防災倉庫を地域をつなぐシンボルへ～	防災意識や地域コミュニティの希薄化といった地域課題に対して、殺風景な防災倉庫を親しみやすく魅力ある「地域のシンボル」とすることで、日常的に防災を意識するきっかけを作りたい。	公園の防災倉庫を住民から募集したデザインでペイントし、親しみやすいシンボルとすることで、日常的に目に留まりやすくなるとともに、防災フェスティバルなどの啓発活動の象徴としても活用し、地域住民が防災力や地域力の大切さに意識を向けることをねらう。さらに、防災倉庫を中心に世代間交流を促進し、住民同士のつながりを育むことで、災害時に助け合える関係性を築き、安心して暮らせる地域コミュニティの醸成を目的とする。	五軒屋公園に設置された防災倉庫を地域住民から募集したデザインでペイントする。5月総会での内容承認後、6月に関係者との調整、7月に回覧板にて元刈谷地区住民からデザインを募集する。防災倉庫全体は大人が、複数の小さなスペースは子どもが担当することで、世代を超えた協働を促進し、特に子育て世代が気軽に防災に関われるよう工夫する。デザイン採用後、9～12月に見積りから施工・完成までを専門業者と進めていく。防災倉庫は、単なる防災機材の収納施設ではなく、地域のシンボルとするため、色彩豊かで親しみやすく、景観と調和したデザインを採用する。また、地域住民の目に継続的に留まり、防災に関する会話や学びの入口となるよう、子どもが担当する小さなスペースのデザインは定期的に変更し(3年程度でデザイン再募集→再ペイントを繰り返す)、地域と防災をつなぎとめるシンボルとして育てていく。さらに、防災倉庫を中心に、毎年開催している防災フェスティバルを3月を実施する。地域住民によるデザインの紹介や、防災倉庫内部の探検会、親子で楽しめる防災ゲームなどを通じて交流と学びの場を広げる。	19.88	採択
5	重原 歴史を学ぶ会 (R6.2)	重原歴史本を通して地元愛を育む	自治会活動の衰退に対し、重原地区の持つ歴史的魅力を知ってもらい、シビックプライド（地元愛）を高めたい。	重原地区も自治会活動が衰退傾向にある。移住して来られた方も多いため、今後を考えると特に子ども達に地元重原を知ってもらい、好きになってもらい、地元の活動に積極的になって欲しい。自治会活動が活発になると地区内のコミュニケーションもよくなり、大災害時の防災力向上にも繋がる。	重原地区に関わる歴史本を作成、発行する。内容は小学生低学年向けから専門的な物を含む。500冊作成し、350冊は一冊800円で販売、150冊程は様々な所へ寄贈する予定。完成後は本を活用して重原地区の小学生を対象に読み聞かせをしたり、一般の人向けに読んだうえでの質問会や意見交換会を開催する。また重原の名所巡りのウォークラリーも計画している。会場は、重原市民館。周知の仕方は、回覧板、広報版、重原ホームページ、子ども会の協力を考えている。	18.81	採択

NPO法人設立支援事業補助金

令和7年度は申請なし